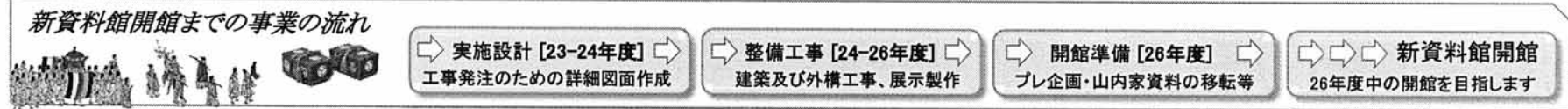
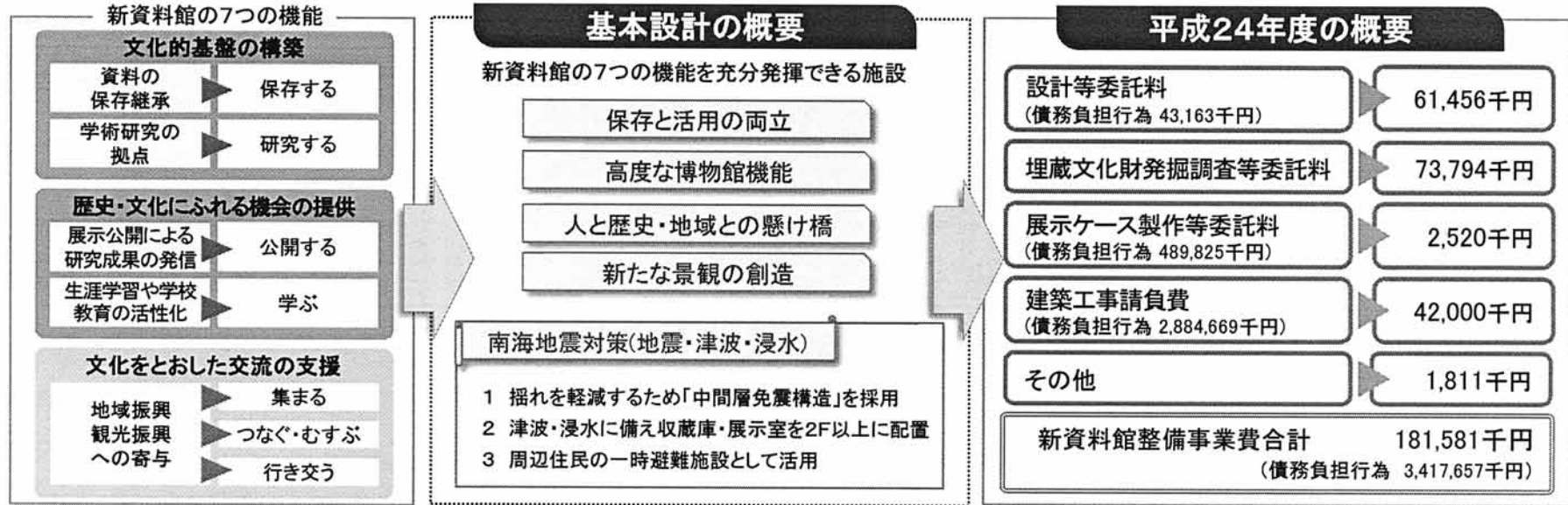


# 新資料館整備事業費 山内家資料を核として高知の歴史を過去から未来へつなぎ、その魅力を全国に発信!!

181,581千円(文化・国際課)





# H24年度 中学校学力向上支援事業 46,378千円

小中学校課

背景

全国学力・学習状況調査の結果から、高知県の子どもたちの学力の定着状況に大きな課題があることが明らかとなり、特に高知市では、学力の定着状況に大きく関わりがある家庭での学習習慣が身に付いていない生徒が非常に多く、この3年間学習習慣の確立を図る取組を進めてきた。

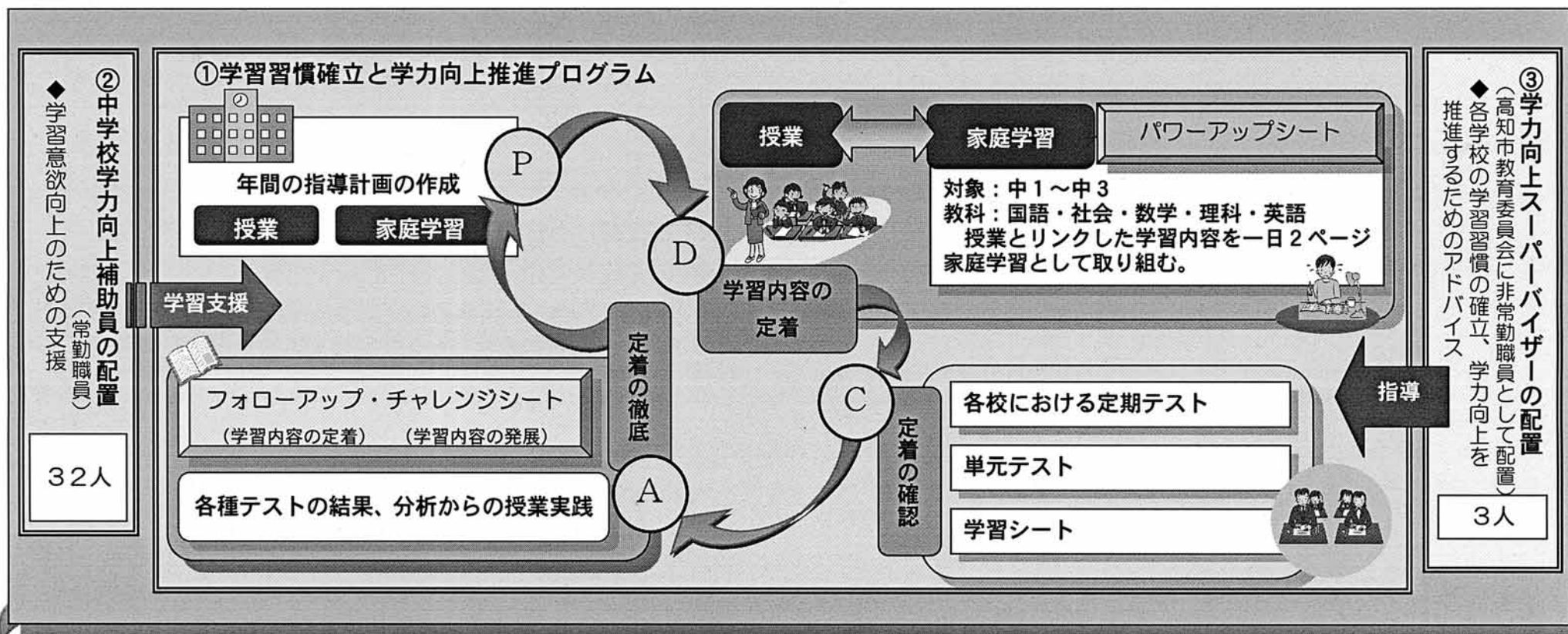
※ 学校の授業以外に普段、全く勉強しない中学生の割合 高知市(9.4%) 全国(7.1%) 【H22 全国学力・学習状況調査結果】

3年間の取組の成果は表れているものの、より学習習慣の定着状況を改善するために、学習習慣確立のための取組を継続させ、学校が生徒の実態をとらえた学力向上のPDCAサイクルの確立を図ることが重要である。

趣旨

高知市の中学校において、授業と関連した予習・復習のためのプリント学習、学習の定着状況を把握するための単元テストを行うことにより、中学生の学習習慣の定着及び学校の学力向上に向けたPDCAサイクルの確立を図り、全国平均の学力を目指す。

89



H25～ 学校独自の学習習慣確立プログラムのシステム化、全国平均の学力へ～

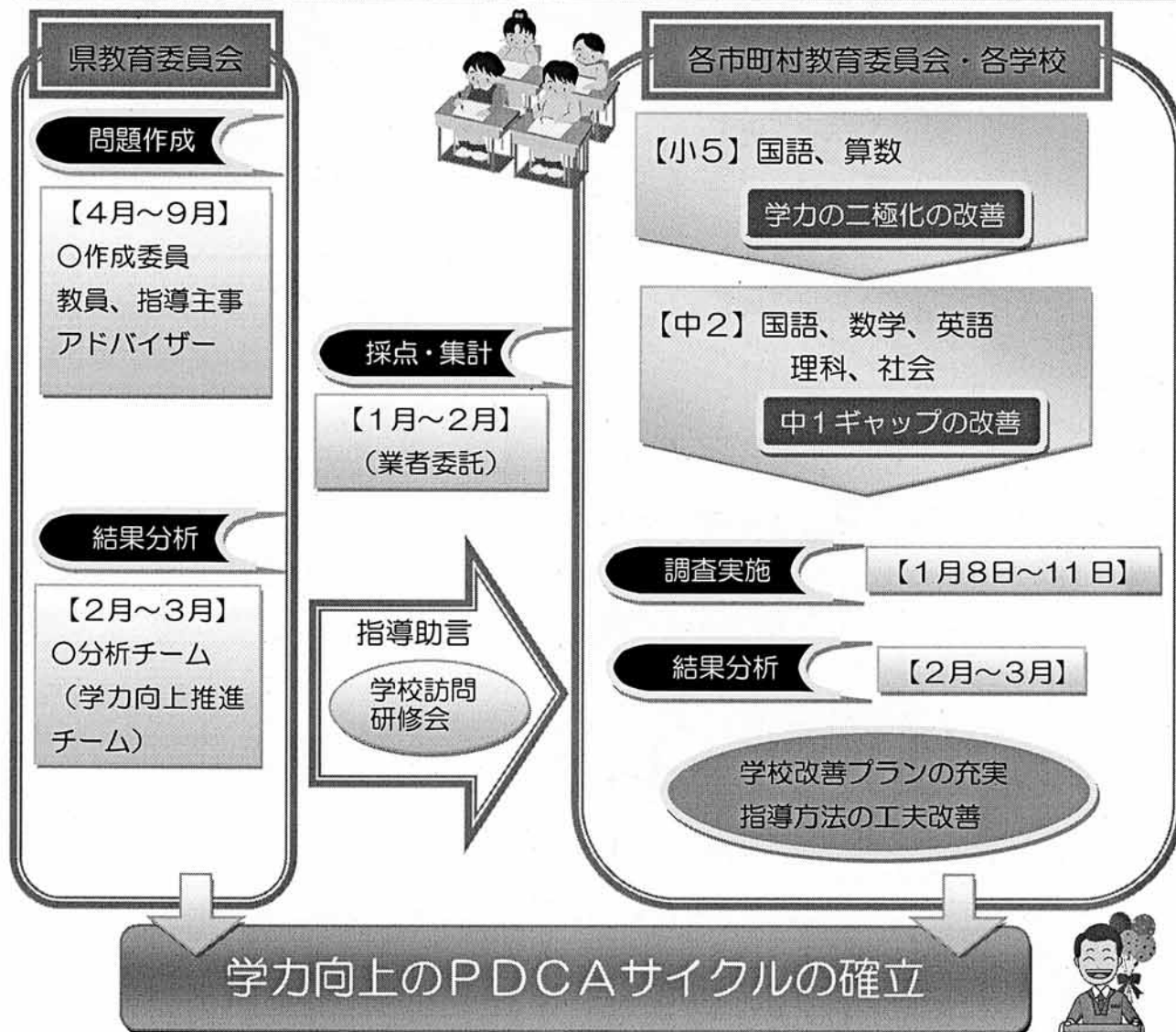




# 高知県学力定着状況調査実施事業 19,439千円

## 目的

本県の学力課題である小学校中学年からの二極化、中1ギャップによる学力の低下に対応するために、小学校第5学年及び中学校第2学年の児童生徒の学力の定着状況を把握し、個々の児童生徒の学力状況を踏まえた指導方法の改善に生かすとともに、各学校及び教育委員会の学力向上対策の検証改善サイクルの確立に活用する。



## 期待される成果

- ◆教科の指導方法が工夫改善され、本県の児童生徒の学力が向上する。  
＜小学校→全国上位、中学校→全国平均＞
- ◆各市町村教育委員会や各学校の学力向上対策のPDCAサイクルが組織的に機能し、小学校からの学力の二極化、中1ギャップが改善される。
- ◆教員が問題作成することにより、教科専門性や指導力が向上する。



# 学校図書館読書環境整備費補助金

79,000 千円

～子どもが親しみやすい図書室の整備やそれを支える人材の確保～



## 目的

公立学校における学校図書館の環境について、「学校図書館支援員の配置による人的な支援」及び「学校図書館への空調設備の設置による物的な支援」を実施することにより、子どもたちの読書環境の充実や思考力・判断力・表現力の向上を図る。

## 現状・課題

- ◆全小中学校に司書教諭を配置しているが、学級担任等との仕事を兼務しているため、学校図書館に係る時間の確保が困難
    - ・司書教諭の1週あたり学校図書館担当時数【全国 0.63 時 県 0.78 時】
  - ◆学校図書館に常駐し、読書環境の整備や子どもに本を貸し出す職員を配置している学校数は少ない
    - ・学校図書館担当職員配置の割合【全国 44.9% 県 12.9%】
    - ・学校図書館支援員の配置【H21：21名・H22：67名・H23：80名】
  - ◆夏休みなどの長期休業中の学校図書館の活用が少なく、子どもたちの読書機会や居場所の確保が不十分
    - ・長期休業中の学校図書館開放の割合【全国 6.0% 県 4.7%】
- ※文部科学省 H22「学校図書館の現状に関する調査」から  
 ・平成 23 年度公立小・中学校の空調設備設置状況【設置校数：147 校＝44.4%】

## 対応

### 1 人のいる学校図書館にするために・・・



■学校図書館支援員（90 人）の配置（H24 予算額：69,000 千円）

区分	形態	補助率（限度額）
常勤支援員（60 人）	週 38 時間 45 分勤務	1/2 以内（900 千円/人）
非常勤支援員（30 人）	月 16 日以内または常勤の 3/4 以内勤務	1/2 以内（500 千円/人）

※緊急雇用を活用した市町村独自の支援員（約 30 人）と併せて、県全体で 120 人の支援員を配置

### 2 快適な読書環境の実現のために・・・

■学校図書館（40 校）への空調設備の設置（H24 予算額：10,000 千円）

- ・補助率 1/2 以内、1 校（1 教室）あたり限度額 250 千円
- ・新たに設置する空調設備に限る



## 期待される成果

## 学校図書館活動の活性化

- ◆学校図書館の開館時間と貸出冊数の増加及び学校図書館の環境整備が充実する。
- ◆学校図書館を活用した授業の計画的実施が進み、児童生徒の読書が質量ともに拡充する。
- ◆授業時間、昼休み、放課後、休日に学校図書館を利用する回数や時間が増加し、児童生徒の学校図書館や図書の利活用が促進される。

○読書センター

○学習・情報センター

機能強化

教育課程の展開を支える学校図書館へ

- ・授業での学校図書館や図書資料の活用
- ・児童生徒の読書活動の活性化



# 『高知のキャリア教育』の推進

こどもたちの社会的・職業的自立に向け、就学前・小中高が連携してすすめる高知のキャリア教育

高知のキャリア教育3本柱 →

学力向上

基本的生活習慣の確立

社会性の育成

### 子どもたちの「夢」や「志」をかなえる基となる力を育てる

- 郷土を愛し世界にはばたく、心豊かでたくましく創造性に満ちた子ども達の育成
- 学ぶ目的や意義を自覚し、自ら学ぶ力をもった人間の育成

#### 自らの将来を切り拓く力を育てる

現実的探索・試行と社会的移行準備の時期

- 自己理解の深化と自己受容
- 選択基準としての勤労観、職業観の確立
- 将来設計の立案と社会的移行の準備
- 進路の現実吟味と試行的参加

#### 見通しをもつ力・やりぬく力を育てる

現実的探索と暫定的選択の時期

- 肯定的自己理解と自己有用感の獲得
- 興味・関心などに基づく勤労観、職業観の形成
- 進路計画の立案と暫定的選択
- 生き方や進路に関する現実的探索

#### かかわり合う力・自ら学ぼうとする力を育てる

進路の探索・選択にかかる基盤形成の時期

- 自己及び他者への積極的関心の形成・発展
- 身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上
- 勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の形成

#### 人格形成の基礎となる豊かな心情・意欲・態度を育てる

生きる力の基礎を培う時期

- 健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う
- 自立心を育て、人とかかわる力を養う
- さまざまな環境に好奇心や探究心をもって主体的にかかわろうとする力を養う
- 言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う
- 感性と表現する力を養い、創造性を豊かにしていく

社会的・職業的自立

社会・上級学校

高校【3年間】

中学校【3年間】

小学校【6年間】

就学前

- 学力向上**
- ◇ 中学校段階までの基礎学力を定着させ、進路実現をイメージしながら学習に取り組むようにする。
  - ◇ 専門的な知識・技能を身に付けさせる。
  - ◇ 自分の考えを文章にしたり、発表するなど社会生活に必要なスキルを身に付けさせる。
  - ◇ 物事を論理的に判断できる能力を身に付けさせる。
  - ◇ 言語活動を活発かつ適正に行わせ、豊かな言語能力を養う。など

- 基本的生活習慣の確立**
- ◇ 基本的な学校のルールを守ることで、自己管理能力を高める。
  - ◇ 社会で通用するマナーを身に付けさせる。
  - ◇ 自らの進路を考えた家庭学習をできるようにする。
  - ◇ 読書を通して感性を磨き、読解力や表現力、想像力を高め、人生をより豊かに生きる力を育てる。など

- 社会性の育成**
- ◇ 主体的に社会の形成に参画していくために必要な思考力、判断力、コミュニケーション能力を育てる。
  - ◇ 自分と他者が互いを認め合い、切磋琢磨し、自分の良さを伸ばせるようにする。
  - ◇ 「場」に合った言動ができるようにする。
  - ◇ インターンシップを通して社会に出る具体的なイメージをもたせる。
  - ◇ 郷土の将来を考え、自分の担う役割を自覚させるとともに、多くの人と触れ合いを通して、公共の精神を養い、グローバルな視野をもった人材を育てる。など

- 学力向上**
- ◇ 各教科等とキャリア教育との関連性について正しく理解し、見通しをもつ力を育てる。
  - ◇ 各教科等の特質と単元や題材などの内容を生かした創意工夫を行う。
  - ◇ 学ぶことや働くこと、生きることの尊さを実感させ、学ぶ意欲を向上させる。
  - ◇ 日常生活における言語の役割や機能などについて意識や関心をもち、正しく美しい国語を用いることができるようにする。など

- 基本的生活習慣の確立**
- ◇ 生活のリズムを習慣化し、自己管理能力を育てる。
  - ◇ 場に応じた返事やあいさつ、時間や約束を守ることができるようにする。
  - ◇ 家庭学習の習慣化を図り、見通しをもつ力・やりぬく力を育てる。
  - ◇ 読書を通して、自分と他者の気持ちを考え、自己の考えをもつことができるよう豊かな心を育む。など

- 社会性の育成**
- ◇ 自分の役割や責任を果たし、自主性を高める。
  - ◇ 社会と自己のかかわりから、自分の特徴に気づき、自分らしい生き方について考えさせる。
  - ◇ 職場体験やボランティア活動等を通して、職業観・勤労観を深め、ともに助け合い生きる喜びを体感させる。
  - ◇ 高知県に関する副読本や教材等を活用し、郷土を愛する心を育てる。など（キャリア教育副読本の活用）

- 学力向上**
- ◇ 各教科等の授業や単元等のガイダンスを工夫し、目的意識を高める。
  - ◇ 各教科の学習内容を吟味し、生活との関連を深める。
  - ◇ 職業に関することや人の生き方に関する内容を活用する。
  - ◇ 日常生活における言語の役割や機能などについて意識や関心をもって正しい国語を用いることができるようにする。など

- 基本的生活習慣の確立**
- ◇ 生活のリズムを習慣化させる。
  - ◇ 返事やあいさつ、時間や約束を守ることができるようにする。
  - ◇ 家庭学習の習慣化を図り、自ら学ぼうとする力を育てる。
  - ◇ 読書を通して、自分と他者の気持ちを考えられる豊かな心を育む。など

- 社会性の育成**
- ◇ 自分の役割や責任を果たし、役立ち喜びを体感させる。
  - ◇ 社会と自己のかかわりから、自らの夢や希望をふくらませる。
  - ◇ 職場見学等を通して、働くことの意味について考えさせる。
  - ◇ 地域に関する副読本や教材等を活用し、郷土を愛する心を育てる。など

- ◇ 就学前は、生涯にわたる人格形成の基礎となる、豊かな心情、物事に自分からかかわろうとする意欲、健全な生活を営むために必要な態度などが培われる重要な時期である。
- ◇ 保育所・幼稚園等では、小学校以降の生活や学習の基礎の育成につながることに配慮し、幼児期にふさわしい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度の基礎を培う。
- ◇ 保育所・幼稚園等における幼児の生活が、家庭や地域社会と連続性を保ちつつ展開されるようにする。その際、地域の自然、人材、行事や公共施設などの地域の資源を積極的に活用し、幼児が豊かな生活体験を得られるようにする。

## 新 小中学校キャリア教育推進事業 7,287千円

- 中学生用キャリア教育副読本作成  
郷土を愛する態度を育てるとともに自らの生き方について考えを深めるための中学生用キャリア副読本を作成・配付
- キャリア教育連絡協議会  
キャリア教育を充実させるための方策や実践事例についての情報交換や協議
- 教育の日関連事業「高知県キャリア教育フォーラム」  
学校・家庭・地域（産業界）の代表者によるシンポジウムや実践発表

## 組替新 学校パワーアップ事業 21,691千円 (21,202千円)

- ① 学力向上対策の研究 ② 教員ゼミ事業 ③ キャリア教育研究事業 ④ 教育課程研究事業

## 組替新 生徒パワーアップ事業 31,853千円 (29,874千円)

- ① 学力向上サポート員事業 ② 社会人基礎力の育成 ③ 大学へ行こうプロジェクト事業 ④ 企業を知ろう事業 ⑤ 仕事を知らう事業 ⑥ 本物に触れる事業 ⑦ 高大連携

平成 24 年度予算額  
60,831 千円  
(51,076 千円)



# 新図書館等整備事業費

平成24年度予算額 258,786千円  
 (平成22年度2月補正予算額 132,777千円)  
 新図書館整備課

## 目的

狭隘化や老朽化が課題であった県立図書館と高知市民図書館本館を合築により新たに整備し、図書館機能の充実と効率的な運営を図る。また、点字図書館とこども科学館(仮称)を併設した複合施設として整備することで、様々な人々の交流を深め、県内の生涯学習や文化の発展に寄与する知的・文化的な基盤としていく。

## 主な事業内容

・新図書館等複合施設等実施設計委託料	205,344千円
・こども科学館展示実施設計委託料	15,918千円
・電波障害調査委託料	385千円
・新図書館情報システム等基本設計委託料	25,200千円
・事務費等	11,939千円

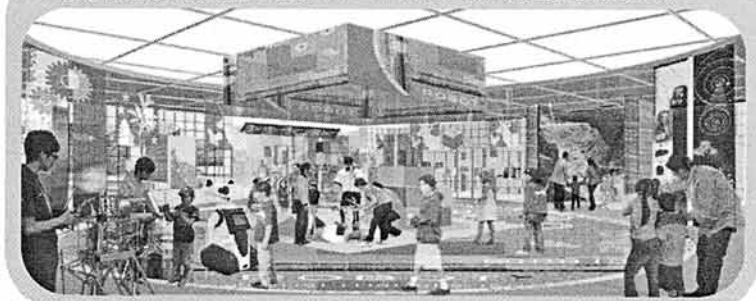
新図書館等複合施設の建築及びこども科学館(仮称)の展示にかかる設計について、平成23年度の基本設計に引き続き、実施設計を行う。

また、新図書館では、県立図書館と高知市民図書館を一本化した窓口でサービスを提供していくことになるため、それぞれの図書館情報システムを統合した新たなシステムを構築するための基本設計を行う。

新図書館の館内イメージ(基本設計企画提案書より)



こども科学館(仮称)の展示イメージ(基本設計企画提案書より)



## 新図書館等複合施設の整備スケジュール(見込み)

平成23年度

- ・基本計画の作成
- ・基本設計

平成24年度

- ・実施設計
- ・情報システム  
(基本設計)

平成25年度

- ・埋蔵文化財発掘調査
- ・建築工事
- ・情報システム  
(詳細設計・構築)

平成26年度

- ・建築工事
- ・情報システム  
(構築)

平成27年度  
開館





# 防災教育推進事業

24年度予算額14,856千円

(23年度予算額1,282千円)

スポーツ健康教育課

- 現状と課題**
- ・学校の危機管理能力・防災力、児童生徒の防災対応力を高める必要がある。
  - ・多くの学校が講師による講演や避難訓練のみの防災教育となっている。
  - ・実践的な防災教育の取組に限られた学校にとどまっており、他の学校での取組につながっていない。
  - ・地域と連携した取組が十分ではない。



## 学校の危機管理能力・防災力



### ① 防災教育研修会

2,292千円

県内3カ所で研修会を実施し、正しい知識や先進地の事例を伝えることによって、学校の危機管理能力・防災力を高める。

※東部・中部・西部 学校悉皆研修

### 新 ② 安全教育プログラム

【防災・防犯・交通安全】3,403千円

『安全教育プログラム』を作成（全教職員に配布）、安全教育の取組を広める。

【防災、防犯、交通安全】

安全教育の授業化に向けた指針を策定

### 新 ③ 実践的な防災教育支援事業

5,644千円

県内6校をモデル校に指定。緊急地震速報等の防災科学技術を活用した避難訓練や公開授業等の先進的・実践的な防災教育を行い、取組内容を発信する。

※東部・中部・西部・県立学校

### 新 ④ 学校防災アドバイザー派遣事業

917千円

関係機関等と連携してアドバイザーを派遣し、各学校の実態に応じた学校防災マニュアル等の充実を図る。

※沿岸部を中心に50校へ派遣



## 児童生徒の防災対応力

## 地域の防災力



### 新 ⑤ 防災キャンプ推進事業

2,600千円

県内2地域を指定。地域と連携した防災キャンプを実施し、避難生活を体験する。※沿岸部2地域

## 期待される成果

教職員の防災に関する資質・指導力の向上  
学校の防災管理・組織活動の強化  
学校における発達段階に応じた防災教育の充実  
自分の命を守ることができる児童生徒の育成  
地域との絆づくり